

アダム・スミス年譜

小引。上欄にはスミスの行實を、直接彼の生活に關係した周圍の變化と共に記述し、下欄にはスミスと同年代の、主として英佛獨の 明の方向を指示する著作、事件を列記した。年譜作製について、アダム・スミスの行實及その時代のそれをとの注文を受けたのであつたが、スミスの生活殊に道徳情操論及富國論の著作に直接關係ある事情は、主としてハッチェンへの師事、ヒューム及フィチオクラートとの交遊の如き彼の行實の間の關係であつて、特別にその時代を附記する必要が先づない。彼は時代の精神を云ひ表してをるが、時代が彼をつくつたといふ程ではない。それ故に右の時代欄は直接彼の生活に關係した事實を記す事を目的とせず一般に彼が生活した時代の文明の方向の中で彼の地位を定める資料とならん事を目的とした。この故に熟知せられた、彼の教會的關係及小説文藝への無關心にも拘らず、此等に關係する事實や、又恐らく彼が全く知らなかつた外國の事實が亦併記せられた。もとより此方針が嚴重に守られた譯ではなく、例へばパークレーのタール水の記事及トゥールースのカラ事件の如きは、「哲學」「宗教」に關してよりも、彼の書簡及道徳情操論に現れる彼の言説に關して撰ばれたのである。事實の撰擇の不適當は淺學の自分にとつては避け難い所である。御容赦を願ふ。此仕事については John Rae: *Life of Adam Smith* 及 Gooch: *Annals of Politics and culture* 二據し Sorley: *A History of English Philosophy*. 及 Leslie Stephen: *English Thought in 18th Century*. 其他を參考した。猶スミスが富國論の著作に當り直接利用した經濟學文献はキヤナン版富國論の索引第二に蒐集分類せられてをる。上述の方針から此年譜には撰び入れられてない。夫故その方向に關心の場合には同書を參照せられたい。

行實

一七二三、

六月五日、蘇格蘭 Kirkcaldy に生る。

四月二十四日、父 外港検査官長 Adam Smith 死す。母

は Margaret Douglas とし地主の娘なり也。

時代

一七二三、

「文學」 Voltaire's *Henriade*.

「哲學」 Mandeville の *Fable of the Bees* 第三版現はれ、

Berkeley 之を攻撃す。

Prussia 王、Wolf を Halle より追放す。

一七二四、

「歴史」 Burnet: *History of his own times*.

「經濟學」 Possochhoff: *Poor and Rich*. 重商主義の見地

より、經濟的及社會的の改革案を Peter 大帝に進む。

一七二五、

「哲學」 Hutcheson's *Enquiry into Beauty and Virtue*.

Mandeville 之對して Shaftesbury の倫理を辯護す。

「歴史」 Vico's *Scienza Nuova*. 歴史科學の存在を主張し、人

間進歩の周紀的時代を究む。

一七二六、

「文學」 Butler's *Sermons*. Swift's *Gulliver's Travels*.

「事件」 Voltaire 英國に留學し三年間英國劇 Locke、及

Newton を研究す。

一七二六、

四歳、ジブシーに誘拐せられんとす。

一七二九

「宗教」 Law's Serious call.

一七三〇

「宗教」 Trindal's Christianity as old as the Creation. 基督は自然の光によりて啓示せられたる律法のみを肯定すと主張す。

一七三二

「哲學」 Berkeley, Alciphron.

「文學」 Pope's Essay on Man.

一七三三

Kirkcardy の Burgh School に入學、拉甸語及數學を學ぶ。

一七三四

「文學」 Voltaire's Lettres sur Anglais. Locke 及 Newton の思想を佛國に紹介す。

「歴史」 Montesquien's Grandeur et Décadence des Romains.

一七三五

「經濟學」 Berkeley's Querist. 貨幣の性質を説明す。

一七三六、

「宗教」 Butler's Analogy of Religion.

Wolf's Theologia Naturalis. 獨逸教界に啓蒙運動

を創始す。

「事件」 英國巫術禁止令廢止せらる。

一七三七、

十月、Glasgow 大學に入學し、一七四〇年迄在學す。

希臘文學を Alexander Dunlop に、數學を Robert

Simson に、道德哲學（經濟學自然法學を含む）を

Francis Hutcheson に學ぶ。

一七四〇年四月日附にて Smith が師の指導の下に

Hume の Human Nature の綱要を作製せりと推定

せしむる。Hume への Hutcheson 宛の書翰あり。

一七三八、

「政治」 Bolingbroke's A Patriot King. 君主は政黨以外に

たゞの言葉を主張す。

一七三九、

「哲學」 Hume's Treatise on Human Nature.

一七四〇、

六月、Schell奨励金の給費生として郷を出で、Oxford. Balliol 大學に遊學す。此年より一七四六年迄 Oxford に在りて希臘、拉甸の古典、伊國詩人、佛國古典等を獨學し又作文を練習す。

「宗教」 Chubb's True Gospel. 勞働階級に巫神論を説明す。
一七四〇、

「事件」 Frederick 大王即位。

一七四一、

「哲學」 Hume's Essays Moral and Political.

Brucker's Historia Philosophiae. 始めて思想史を系統的に叙す。

一七四二、

「文學」 Fielding's Joseph Andrews. 寫實體小説。

一七四三、

「科學」 D'Alembert's Dynamique.

「文學」 Voltaire. Frederick 大王を訪ふ。

一七四四、

「哲學」 Berkeley's Siris. タール水の治療力を勧め、物質の非實質性を説く。

「宗教」 第一回メンディサント會議。

一七四五、

「哲學」 Lennetrie; Histoire naturelle de l'ame. 及

四月、Bachelor of Arts の試験に及第す。

一七四四、

L'Homme Machine. 唯物主義を始めて系統的に述作す。

「宗教」 Hervey's Meditations and Contemplations. Wesley の神學を民衆に布及す。

一七四六、

八月、故郷に歸り復校を斷念す。此秋より一七四八年秋に至る迄母と共に Kirkcaldy にありて隨伴教師の職を求む。

一七四六、

「哲學」 Condillac's Origine des Connoissances humaines Locke に從ひ知識の起源を感覺と反省より説明す。 Diderot's Pensées Philosophiques. Pascal を批判す。

「文學」 Vauvenargues' Maximes et Pensées.

「事件」 "The Young Pretender" 四月 Culloden に於て敗れ蘇格蘭を逃れて佛蘭西に渡る。 Hutcheson 死す。

一七四八、

此年より翌年にかけての冬期、Edinburgh に於て文學の公開講演を行ふ。

一七四八、

「哲學」 Hume; Philosophical Essays (後に改題して Enquiry) concerning Human Understanding.

William Hamilton of Bangour の詩を蒐集し出版す。

「宗教」 Middleton's Free Inquiry concerning the Miraculous Powers of the Christian Church. 教義の歴史

Lord Karnes と交る。

特に解釋せんす。

Hume : *Essay on Miracles*. 奇蹟の蓋然性を檢す。

「文學」 Richardson : *Clarissa Harlowe*.

Klopstock ; *Messias*.

「政治學」 Montesquien's *Esprit des Loix*. 國民の自然的及

歴史的特性にかけて法律を論ず。

「事件」 Aix-la-Chapelle 條約によりて英國 *Madras* を取得

す。

一七四九

「哲學」 Hartley's *Observations on Man*. 思想、情緒及意

思動作の起原を全時的及繼起的聯想の法則の下に感

覺のみより説明す。

「宗教」 カルビン派的メソヂイイズムの獨立。

「文學」 Fielding ; Tom Jones. Johnson ; *Vanity of Human Wishes*.

Mme Geoffrin のサロン最著各々の *D'Alembert*, *Diderot*, *Marmontel*, *Morellet* 等屢々會す。

彼等な又 *Holbach*, *Helvétius*, *Mme d'Épinay*, *Mme du Defend* 等のサロンを有せり。

一七五〇、

此年より翌年一七五一年にかけての冬期、再び Edinburgh に公開講演を行ひ英文學と併べて經濟學を講じ商業の自由を主張す。

詩人 Hamilton 及舊友、商務及拓殖官 James Oswald と交る。

Hume: Oswald 上 Essay on the Balance of Trade の草稿を送る。

一七五一、

一月十六日、Glasgow 大學論理學教授に任ぜらる。就職論文、De Origine Idearum を讀む。修辭學及美文學を併せ講ず。十月より論理を講ずる傍ら、病氣休講中なる Prof. Craigie に代り道德哲學を講ず。

Hume と始めて交る。商人なる市長 Cochran と交り、其の設立せる經濟學會に入會し、商工業上の問題を討論す。

一七五〇、

「政治學」 Rousseau 懸賞論文 Discours sur les Sciences et les arts. に於て、學藝の進歩は道德を向上せしめんと主張す。

「歴史」 Turgot: Progrès successif de l'Esprit Humain 進歩は開展の法則に従ふ。

「文學」 Voltaire. Berlin を訪ふ。

一七五一、

「哲學」 Hume: Enquiry concerning the Principles of Morals.

「文學」 Diderot 及 D'Alembert 上 Voltaire, Turgot, Montel, Duclos, Daubenton 其他の協力によりて Encyclopedie 第一卷及第二卷を編纂出版す。

一七五二、

Craigie の後任として道徳哲學(自然神學、倫理學、自然法學、社會發展史、經濟學を包括す)の擔任教授となる。Hume を論理學後任教授に推舉せんとして成功せず。

Edinburgh 哲學會の會員に推選せらる。

校友及 Hume 等と共に、Glasgow 文學協會なる社交俱樂部をつくる。

Hume, Edinburgh 辯護士會圖書館の司書となる。

一七五四、

同志と共に The Select Society of Edinburgh を設立し主として農業經濟上の問題を討論す。

(此會は一七六七年迄繼續せり)。

一七五五、

七月、同志と共に文藝雜誌 Edinburgh Review を發行し、A Review of Dr. Johnson's Dictionary を

メソクノスメン年譜

一七五二、

「經濟學」 Hume; Political Discourses. 商業均衡論に於て貨幣を以て眞の國富の循環の手段なりとし國內に貨幣を蓄積する事を目的とする重商主義的干渉に反對す。

「歴史」 Voltaire's Siècle de Louis XIV.

一七五四、

「哲學」 Condillac; Traité des Sensations 反省の能力をも感覺より説明す。

「政治學」 Rousseau; Origine de l'Inégalité. 不平等は自然法に背反する旨を説き現在の社會秩序を攻撃す。

「歴史」 Hume; History of England. 第一卷。

一七五五、

「哲學」 Hutcheson, System of Moral Philosophy 出版せらる。人間を徳行に導くべき道徳官の存在を説き

三五三

寄稿す。翌年一月發行の第二號且最終號には歐洲各國、主としては佛國の文學界を紹介せる書簡體の一編を寄稿す。

かくの如き倫理的善は最大多数の幸福を來すべき行爲なりとする。

「經濟學」 R. Caulton : Essai sur la Nature du Commerce en général.

「文學」 Johnson : Dictionary.

一七五六、

Watt, Glasgow 大學の機械工となる。

一七五六、

「經濟學」 Quesnay, Evidence and Fermiers なる二論文を Encyclopedie に寄稿す。

Mirabeau ; Ami des Hommes 農業の改善を論ず。

「文學」 Burke : Treatise on the Sublime and Beautiful.

「事件」 七年戦争起る。

一七五七、

一七五七、

Ferguson, Hume の代りに Edinburgh 辯護士會圖書館の司書となる。

「哲學」 Price : Review of the Principal Questions of Morals. 善惡は理性によりて識別せらる。

「宗教」 Hume : Natural History of Religion. 比較研究法を用ひ多神教を以て信仰の原始的形態なりとす。

一七五八、

大學會計官を兼任す。(一七六四年迄)

一七五九、

春、Andrew Miller, London への Theory of Moral Sentiments 第一版發行せらる。

春、Franklin 蘇蘭格に遊び Smith と交友す。

夏、Duke of Buccleugh の繼父 Charles Townshend、近著によりて Smith を識り之を Glasgow に訪問す。

Ferguson, Edinburgh 大學教授となる。Hume, London に在り。Burke, Annual Register に Moral Sentiments を紹介す。

一七六〇、

學部長となる。(一七六二年迄)

「科學」Haller: Elementa Physiologica 進化を説く。

「經濟學」Quesnay, Traité de l'Encyclopédie に寄稿す。

一七五八、

「哲學」Helvetius: De l'Esprit.

「經濟學」Quesnay: Tableau Economique.

一七五九、

「宗教」Hamann: Socratische Denkwürdigkeiten に於て基督教を啓蒙主義より擁護す。

「文學」Goldsmith: Citizen of the World.

Johnson: Rasselas.

Voltaire: Candide.

D'Alembert. Encyclopédie より脱退す。

一七六〇、

「文學」Sterne: Tristram Shandy. Macpherson: Ossian.

Rousseau: La nouvelle Héloïse.

「經濟學」 Mirabeau: Theorie de l'Impôt.

「科學」 Black: 潛熱を發見す。

「事件」 George III 即位す。内閣 Mithia Bill を蘇格蘭に

擴張する事に反對す。Mithia 制度を請願する爲に

Edinburgh 卽 Poker Club 設立せらる。

一七六一'

Moral Sentiments 第二版、The Dissertation on the Origin of Language を附して發行せらる。

九月、校務を携へて始めて London に上る。後の首相 Lord Shelburn と同道し、Shelburn 自由主義に改宗す。

Hume その他の蘇格蘭出身諸友に交る。始めて Samuel Johnson に逢ふ。よからず。

Shelburn 及 Burke 始めて政論として自由主義を鼓吹す。

一七六二'

副總長となる。

Edinburgh Poker 倶樂部の成立に關與す。

「事件」 Quakers 及 Amis de Noires によりて英佛に奴隸賣

買反對運動起る。

「事件」 Quakers 及 Amis de Noires によりて英佛に奴隸賣

買反對運動起る。

Edinburgh 卽 Poker Club 設立せらる。

一七六一'

「事件」 Quakers 及 Amis de Noires によりて英佛に奴隸賣

買反對運動起る。

Edinburgh 卽 Poker Club 設立せらる。

一七六二'

「哲學」 Lord Kames: Elements of Criticism.

「政治學」 Rousseau: Contrat Social.

一七六三、

十月、Townshendとの間にBuckleugh公の随伴教師たるべき契約確定す。

十一月、學部より冬期中任意の時期にLondonに上る許可を得。

Hume, Edinburghにあり八月巴里駐在英國大使付秘書官に任ぜらる。

James Stewart 政治的追放より許されて故國に歸る。

一七六四、

一月末 London に入京。

二月十三日 Buckleugh 公に随伴して巴里に入る。

十四日、巴里より Glasgow 大學總長へ宛て辭職願を發送す。

三月一日、大學評議員會 Smith の辭職を許可す、七月 Reid 後任教授となる。

二月二十四日、巴里を發して、三月三日 Toulouse

アダム・スミス年譜

「事件」佛國 Toulouse に於て Jean Calas (新教徒) 舊教改宗者なるその息子を殺せし嫌疑にて罪無くして車裂させらる。

一七六三、

「經濟學」Du Pont: Reflexion sur la Richesse de l'Etat.

「事件」佛蘭西、北米にある領土を放棄す。

一七六四、

「哲學」Reid: Inquiry into the Human Mind. 常識の原

理に基き Hume に反對し、吾々は外物の直接知識

を有すてふ自然的實在論的見地をとる。

Voltaire: Dictionnaire Philosophique.

Rousseau: Emile.

「法律學」Beccaria: Dei delitti e delle pene. 刑法を人

文化せんとす。

三五七

に着、一七六五年八月迄滞在す。

Hume の従弟に於て Toulouse の監督補助 Abbe Seignelay Colbert を通じて後の佛國首相、監督 Lomenie de Brienne 及 Morellet と識る。

富國論に執筆し始めたる旨を七月五日日附にて Hume に通信す。

八月、Bordeaux に遊び、Richelieu 公に會見す。

九月、避暑地 Bagnères de Bigorre に遊ぶ。

公弟 Hew Campbell Scott の一行に加はらんとす。め巴里より來るを迎へんとす。十月廿一日再び Bordeaux に出發す。

十一月末、Languedoc 州議會見學の爲め Montpellier に行く。

Moral Sentiments 佛譯 Q. Doris: Metaphysique de l'âme 出版せらる。

一七六五、

八月末より南佛蘭西を旅行し、十月 Geneva に入る。

「文學」 Walpole: Castle of Otranto. 英國文學に於ける浪漫派。

漫派 Goldsmith: Traveller. 成切せる最後の古典派的作品。

Johnson, Literary Club を設立す。

一七六五、

「科學」 James Watt 蒸汽機關を發明す。

十二月迄滞在、共和國制度の實際の運用を観察す。

Voltaire, 醫師 Tronchin, 自然科學者且形而上學者なる Bonnet, 大統領 Turretin, Rochefoucauld 公等に交る。

十二月降誕祭頃巴里に歸る。

一七六六、

巴里に滞在し、Baron d'Halbach のチャローンに於りて Diderot, Marmontel, Turgot, Raynal, Galiani, Morcllet 等の哲學者且辭典譯者あり。Mlle l'Épici-nasse のチャローンに於りて Turgot, D'Alembert, Grimm, Condillac, Gibbon 等と交歡す。その他當時著名なりし Helvetius, Mme de Geoffrin, Comtesse de Boufflers, Mme Necker, Mme Riccoboni 等のチャローンに出入す。

「文學」 Pery: Reliquis of Ancient Poetry 英國に於ける浪漫派的勢力を擡ぐ。

Nicolai: Allgemeine Deutsche Bibliothek.

「經濟學」 Physiocrat 及 Gournay 學派協同して Journal de

l'Agriculture, du Commerce et des Finances を發行す。

「法律學」 Blackstone: Commentaries on the Laws of

England.

「事件」 Grenville, Stamp Act を發布し激烈なる反抗を買ふ。

一七六六、

「文學」 Goldsmith: Vicar of Wakefield

• Wieland: Komischen Erzählungen

Testing: Isaacin.

「經濟學」 Turgot: Reflexion sur la Formation et la

Distribution des Richesses.

三五九

又巴里及 Versailles なる Quesnay の居室に集る Physiocrat の群と親しく交際す。又當時巴里滯留中の Horace Walpole と識る。

屢々佛蘭西戲劇を觀賞す。

夏八月、Compiègne に遊ぶ。

十月十八日、公弟 Scott 巴里の街路に於て暗殺せらる。

十一月一日、遺骸を守りて Dover に歸着す。

此年一月、Hume 國務次官に任ぜらる。Rousseau を伴ひ London と移る。

六月 Rousseau と Hume と争ふ。Rousseau を悪人と呼び Hume が採るべき行動につき忠告せる Smith の書簡あり。

一七六七、

一月より五月迄 London に滞在し、London Museum にて經濟問題殊に殖民地行政に關する研究をなす。

五月、Kirkcaldy に歸り爾後専ら富國論の著作に

一七六七、

「經濟學」 Sir James Stewart: Enquiry into Principles of Political Economy.

Adam Ferguson: Essays on the History of

従事す。

五月廿一日、Smith 歸國後 Royal Society of London の會員に推選せらる。

此年五月三日 Boscough と Lady Besty と結婚し九月領地 Dalkeith に歸る。

九月より十月迄 Dalkeith Hause に宿る。

此年 Moral Sentiments 三版發行せらる。

一七六八、

昨年末 James Oswald 病みし故國に歸る。

舊友 James Oswald と交る。

一七六九、

八月 Hume 職を辭しし Edinburgh に歸る。

一七七〇、

七月 Edinburgh 市長より市民權及 Guild-brethren

の權を與へらる。此頃より過勞の爲め健康を害す。

一七七一、

七月 Pulteney たる Andrew Stuart, Adam Fergu-

Civil Society.

Mercier de la Riviere: L'Ordre naturel et Essentiel des Sociétés politique.

Physiocraat 學派' Abbé Bandeau の Ephéméride du citoyen の譯。

「文學」 Lessing: Minna von Barnhelm. 及 Hamburgische Dramaturgie. Shakespear への譯發せらる。

「事件」 Townshend 北米殖民地に茶税を課し反抗を買ふ。

一七六八、 「政治學」 Priestley: First Principles of Government.

「經濟學」 Du Pont de Nemours: Physiocratie.

一七六九、

「宗教」 Price: Dissertation. 樂天的理論論。

「文學」 Diderot 等 Voltaire への反對しし Shakespear を獨揚す。

「事件」 Arkwright 水力を動力とする紡績機械を發明す。

一七七〇、

「哲學」 Holbach: System de la Nature.

Kant: De Mundi sensibilis et intelligibilis Forma et Principiis. 「Hume への獨斷論的批判」を翻譯せらる。

「政治學」 Burke: Thoughts on the Present Discontents.

Smith と共に東印度商會の特別監査委員に推擧の交渉ありて、九月の Smith 同意の返簡を出す。乍然此企劃は議會の反對により中止せらる。

略ぼ同時に Baron Mure 及 Hamilton 公の隨伴教師たるべき交渉を受く。Smith の同意を推定せしむる書簡あり。但、公及公母の意見によりて交渉中止せらる。

一七七三'

四月、略ぼ完成せる富國論草稿を携えて London に上る。

五月 Royal Society of London に受容せらる。

蘇格蘭出身諸友及 Josua Reynolds, Johnson, Burke, Gibbon, Walpole 等の文藝の士と交る。

Ferguson 及 Chesterfield 伯の隨伴教師に推擧す。

此年より一七七六年迄 Smith は London に在りて富國論の添削推敲に従事し、その間 Dr. Price 及 Franklin と交遊し稿成るに隨ひ討論せりと云ふ。

一七七三'

「文學」 Goethe : Götter von Berlechingen. 獨逸 Sturm und Drang 時代始まる。

一七七四、

Moral Sentiments 第四版出版せらる。

此年本書新佛譯 Abbé Blayet によりて出版せらる。

一七七五、

Johnson の Literary Club の會員に推選せらる。

一七七六、

三月九日、富國論第一版出版せられ、識者の歡迎を受く。

四月一日、富國論の寄贈を謝し、且地代は價格を定めず價格が地代を定むるなりとの批評を含む Hume の書簡あり。此年 Hume 病む。

四月、Hume を見舞はんとて蘇格蘭に歸り、途中 Hume の London に上るに逢ふ。

七月四日、Edinburgh に於て Hume と最後の宴を共にす。Hume の「自然宗教に關する對話」の出版に反對す。

一七七四、

「政治學」 Cartwright ; American Independence the Glory and Interest of Great Britain.

「宗教」 Lessing : Wolfenbütteleer Fragmente.

「文學」 Justus Möser : Patriotische Phantasie. Rousseau 及啓蒙思想を攻撃す。

一七七五、

「文學」 Goethe. Weimar に移る。

「政治學」 Neckar : Législation et la Commerce de Grains.

「事件」 アメリカ獨立戰爭始まる。

一七七六、

「政治學」 Bentham : Fragment on Government. Blackstone の法律先驗説を攻撃す。

「歴史」 Gibbon : Decline und Fall of the Roman Empire. 第一卷。

「事件」 北米殖民地「獨立宣言」を決議す。

八月廿五日、Hume 死す。

十月、Hume の最後を書簡體に叙述し、London の印刷者 Strahan に送る。此書簡圖らず輿論の激昂を買ひ、George Horne によりて無神論者として攻撃せらる。一七七七。

一月初旬、富國論第二版出版に關して London に上る。Literary 倶樂部の諸友と交る。又 Fom を識る。

此年、首相 North 卿富國論に教へられて、下男稅及競賣物品稅を新に課す。

十一月 Kirkcaldy に在り。North 卿より蘇格蘭稅關委員の一人に任命せらる。年末、母及從姉 Miss Douglas と共に Edinburgh, Canongate なる Panmurehouse に移轉す。

一七七八、

一月末、稅關委員の辭令を受く。

二月、富國論第二版出版せらる。

此年從姉の息 Colonel Douglas を嗣子と定む。化

一七七七、

「宗教」 Priestley: Disquisitions on Matter and Spirit.

靈魂は物質的なりと説く。

「經濟濟」 James Anderson: Nature of the Corn Laws.

最高生産費と其他の生産費との間の差益によりて地代を説明す。

「事件」 A Tailors' Co-operative Workshop at Birmingham

學者 Black 地質學者 Hutton と共に Oyster 俱樂部を設立し、Robertson, Adam Ferguson, Lord Kames, Sir John Dalrymple, Monboddo, Cullen, Dugald Stewart, James Anderson 等と交遊す。閑暇には主として希臘詩人を味讀す。

此年 North 卿住宅税及麥芽税を課す。昨年より今年にかけて富國論獨譯出版せらる。

一七七九、

秋、愛蘭自由貿易問題につき、商務院長 Carlisle 伯及 Henry Dundas より意見を徴せらる。

十一月兩者への書簡に於て、輸出入共愛蘭に英本國と同等の自由を與ふるを以て良策なりと勸む。

此年富國論デนมアルク譯出版せらる。

一七八〇、

此年富國論伊太利譯出版せらる。

一七八一、

六月四日、Edinburgh 市警護隊名譽隊長となる。

アダム・スミス年譜

一七七九、

「宗教」 Cowper and Newton's Olney Hymns.

「文學」 Johnson: Lives of the Poets.

Lessing: Nathan der Weise.

「哲學」 Hume: Dialogues on Natural Religion.

「事件」 羊毛、家畜、カラス等の輸出禁止に苦しめる愛蘭、獨立戰爭の結果守備軍引上げに乗じて自由貿易を主張して反亂起らんとす。North 卿羊毛の輸出、殖民地との自由貿易を許す。

一七八〇、

「宗教」 Lessing: Erziehung d. mensch. Geschlechts.

一七八一、

「哲學」 Kant: Kritik der Reinen Vernunft.

三六五

Moral Sentiments 第五版出版せらる。

此年 Abbé Blavet 富國論佛譯を出版す。

一七八二、

此年富國論第三版の増補として東印度商會の歴史を研究す。

一七八三、

富國論増補の部分に別冊として出版す。Robertson その他と協力して、蘇格蘭文化の發達を援くる目的を以て Royal Society of Edinburgh を設立し、自ら文藝部の Presidents の一人となる。Sir John Sinclair に宛て殖民地保有の無益を論ずる書簡あり。

此年十一月、Fox 下院にて富國論を引きて自由主義を論ず。

一七八四、

富國論第三版増補出版せらる。

Burke, Glasgow 大學總長に選舉せられ、四月蘇格蘭を訪ふ。

四月、Burke と共に國內を巡遊す。

「文學」 Schiller: Die Häuler.

一七八三、

「事件」 Fox, India Bill を提議し、印度の政治を東印度商會より王の任命する委員會に移さんとす。
巴里條約により獨立戰爭終る。

一七八四、

「哲學」 Herder's Ideen zur Philosophie d. Geschichte.
「事件」 Pitt, Board of Control を設置し印度統治を改革す。

五月二十三日、母死す。

一七八五、

Burke 再び總長に選まれて八月蘇格蘭を訪ふ。

此年英國の人口漸減せりと云ふ Dr. Price に反對せる William Eden 宛の書簡あり。

一七八六、

富國論第四版出版せらる。此年より翌年にかけての冬期、慢性腸疾患に苦しむ。

一七八七、

四月十八日、Edinburgh を發して London へ上る。

Pitt, Addington, Wilberforce, Grenville 等の自由主義政治家を迎えらる。Pitt の委囑を受け政務記録を調査す。

七月膀胱炎を病む。秋歸國す。

十一月、母校 Glasgow 大學總長に選舉せられ、

十二月十二日就任す。

此年下院にて Robert Thornton は對佛通商條約につき、

アダム・スミス年譜

一七八五、

「哲學」 Paley: The Principles of Moral & Political Philosophy, 神學的功利主義。

Reid: Essay on the Intellectual Powers.

Kant: Metaphysik d. Sitten.

「事件」 Cartwright 「Power loom」を發明す。

一七八七、

「經濟學」 Bentham: Defence of Usury. Smith の高利制限論に反對す。

三六七

George Dampier は印紙稅請負につき各々の論據を富國論に求む。

一七八八、

十一月、大學總長に再選せらる。

十二月、Gibbonより羅馬衰亡史の最後の三卷を贈られ、彼を以て Voltaire 後の文學界の第一人者なりと返簡す。

此冬再び健康を害す。

一七八九、

夏 Samuel Rogers 蘇格蘭旅行の途次 Smith に歓迎せらる。

一七九〇、

Moral Sentiments 第六版を訂正増補して出版す。

(増補は主として Part I. Section III. Ch. III なり)。三月、病進む。六月、一時恢復せる病再び重し。

一七八八、

「哲學」 Kant: Kritik d. Praktischen Vernunft.

一七八九、

「政治學」 Bentham: Principles of Morals and Legislation.

功利の原理を發展す。

The Declaration of the Right of Man. 人は權利

にきつては自由平等に生れたり。

「事件」 佛國革命起る。

一七九〇、

「政治學」 Burke: Reflexions on the French Revolution.

革命が教會及王室を襲撃する事及抽象的なる人權説を非難す。

一時絶交せる Ferguson 訪問慰問す。

七月十一日、Smith の懇話にて十六卷の諸草稿を焚く。

七月十七日、死す。Canongate Churchyard に葬る。

此年二月 Pitt 富國論を引用して豫算案を説明す。又 Rancher 及 Condorcet 富國論の新佛譯を出版す。

「哲學」 Kant: Kritik d. Urtheilskraft.

「事件」 Cartwright 羊毛梳毛機を發明す。

村 松 恒 一 郎